

平成29年度 綾瀬市立綾西小学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針		(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども
学校教育目標		学校経営の方針
「進んで学ぶ子」 (知) 「思いやりのある子」 (徳) 「じょうぶな子」 (体) 「ねばり強い子」 (意)		○児童一人一人の個性や人格を尊重し、豊かな自己実現を図ることをめざす。 ○人権尊重を基盤にした児童理解と、いじめのない明るい学校をめざす。 ○個に応じた指導の充実と、確かな学力の育成をめざす。 ○児童一人一人が安全で、落ち着いて生活できる教育環境の整備をめざす。 ○家庭・地域と連携し、地域に開かれた学校をめざす。 ○指導力の向上に向け、常に自己研鑽に努める教師集団をめざす。
今年度の重点目標		
○豊かな心の育成 ・ 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成 ・ 道徳、特別活動、読書活動の推進 ○確かな学力の育成 ・ 学習ルール徹底 ・ 学習ルールを徹底 ・ 言語活動を生かした指導 ・ 家庭学習の指導 ・ 校内研究研修の成果を生かした指導 ・ 総合的な学習の時間の推進		
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、進んで学ぶ子を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	校内研究を中心に授業改善に取り組んできた成果として、85%の児童が「進んで学習している」と回答しています。昨年度より作成・活用してきた「話す」「聴く」「つなげる」モデルをさらに継続して取り組み、児童同士が考えをつなげていく授業を目指していきます。
2 教育課程	児童は、学校行事や特別活動にねばり強く取り組んでいる。	運動会や児童会活動等、児童が主体的に活動できるように指導した成果として、ほとんどの児童・保護者が「学校行事等に対して楽しみでがんばって取り組んだ」と回答している。にこにこかつどうをさらに充実させることにより、人を思いやる心を育てていきます。
3 児童・生徒指導	学校は、思いやりのある子を育てる指導を積極的に行っている。	児童会での取り組みを中心に「あいさつ運動」を積極的に進めてきた成果として、児童・保護者とも約9割が「進んであいさつをして仲よくしている」と回答している。また、地域の方からも、気持ちの良いあいさつをする児童が増えてきたという感想もいただくことができました。今後もあいさつだけでなく、相手を意識して行動できる児童を育てていきます。
4 児童・生徒指導	児童は、友人や先生との学校生活に満足している。	長い昼休みでの、クラス遊びやにこにこ活動等を通して多くの友だちと交流してきた成果として、約9割の児童が「友だちと学校生活を楽しんでいる」と回答しています。また、今年度「スクールアンケート」に「友だちの良い行動を見つける」欄を加えたことで、人間関係を築くうえで効果的でした。今後も児童同士が触れ合う活動を重視し、すべての児童にとって楽しいと思える学校を目指します。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	約4割の保護者が「分からない」と回答しています。「スクールアンケート」の取り組みや、いじめ防止対策委員会の存在や取り組みについて「学校だより」等を通して、さらに積極的に知らせていく必要があります。また、授業参観等で道徳の授業を積極的に公開し「思いやりの心」の育成に取り組んでいる様子を知らせていきます。

6 保健管理	学校は、じょうぶな子を育てる指導を積極的に取り組んでいる。	児童会が計画している「にこにこかつどう」などにより、運動することに対して「めあて」をもち楽しく活動する取り組みの成果として、9割近くの児童が、「学校で元気に過ごしている」と回答しています。また、計測時の養護教諭からの指導もタイムリーな内容であったため、児童は健康づくりに意識して生活できるようになってきています。今後も、児童の主體的な活動と、教師からの指導を生かして、「じょうぶな子」の育成に取り組んでいきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	児童指導では、「火災や地震を想定した避難訓練」「不審者対応の退避訓練」「緊急時の下校指導訓練」「引渡訓練」「交通安全教室」等を実施して、危機管理の意識を養うようにしています。職員による登校・下校指導を定期的に行い、登下校時の事件・事故に備えて、職員が分担して見回り態勢を作っています。今後、さらに登下校時における安全の徹底を、PTAや地域協力者と連携を図り取り組んでいきます。
8 支援教育	学校は児童に応じた支援の工夫をしている。	個別に支援が必要な児童には、保護者の要望をもとにして保護者・学校・専門機関相談員との協議を速やかに行い、一人ひとりに応じた教育環境を整えることに努めています。今後も、教育相談コーディネーターと教頭が窓口となり、学力向上推進支援者及び学習支援者と担任との連携のもと、支援が必要な児童に適切な学習支援が実施できるようにしていきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	学校教育目標を具現化するために、4月初めに校長が明確な方針を打ち出し、運営組織の充実を図ってきました。その方針を受けて、「年間計画」を作成し、取り組んできました。年度末には「年間の振り返り」をまとめ、冊子にして配付し、次年度の計画を立てていきます。今後とも、学校経営方針の重点を意識し、各グループが連携しながら、効率的で活発な運営が機能するように取り組んでいきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	校内研究を中心に、「話す・聴く・つなぐ」を意識した授業を目指し、「子どもの心が動く授業づくり」を目指していきます。また、他校への研究発表大会にも積極的に参加し、そこで得た情報を全職員で共有し、授業力を高めていきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童・生徒の成長のための工夫をしている。	子ども達のよりよい成長のために、月に1回開かれる児童指導委員会で、全職員で見守っていく必要のある児童の情報や変化の様子を確認し、今後の関わり方などを共通理解しました。今後も問題行動の状況把握・報告・協議・関係機関への連絡・対応など迅速に行い、早期解決を図るようにしていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	本校では、学区内の各施設やボランティア団体との連携を図り、教育活動に大きな支援をいただいています。今後も、「学校だより」「学年だより」「学級だより」等を通して、教育活動の実践を伝えていきます。そして、児童のよりよい成長を目指し、学校ボランティアとの連携を図るとともに、子ども達のをよりよく育てていくために、保護者・地域の方々・外部団体と意見を交えながら、協働して取り組んでいきます。
<p>【学校関係者評価委員会からの意見及び改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解決が難しいいじめの報告がないので安心をした。引き続き、児童の指導にあたっていただきたい。</li> <li>・書く力を育てる教育が必要である。書くことによって得られる知識も多くなるだろう。パソコン等を使うと、漢字の書き取り練習の必要性をあまり感じなくなってしまう。しかし、学校で書き取りの能力を伸ばすようにしてほしい。</li> <li>・1年生の書写の時間を大切にして、しっかりとした字が書けるようになることが大切である。</li> <li>・ローマ字の指導はどのように行われているのか。スマートフォンにはフリクション入力主流である。大学生になって、ローマ字を改めて学び、キーボードに入力するようになっていく。小学校から定着するように指導した方がよい。</li> <li>・目久尻川や清水川などの自然を生かした学習をしてほしい。さらに、城山公園の渋谷氏や東郷氏の歴史、済運寺等の寺社の歴史等、神埼遺跡や天神森遺跡等を素材にした学習を展開してほしい。（改善策）現在、総合的な学習の時間等を利用して、上記の素材を学習に取り入れる学習計画等を検討中です。</li> </ul>		